

「親の学習」プログラム

3 — 4

こんなときどうするの？ どうしたらいいの？

子育てをしていくうえでの、「どうしたらいいの？」という疑問についてみなさんで一緒に考えましょう。毎日、無我夢中で子育てしているお母さん・お父さんにとって、自分の子育てについて見つめ考え直す機会は少ないものです。

エピソードにそって、幼稚園や保育園の入園前に身につけたいことを、実際の生活と結びつけて、子供の気持ちになり、どんな言葉がけが効果的か考えてみましょう。

1 着替え～こんなときどうするの？～

エピソード1

やりたがりの3歳のゆうたくん。なんでも興味を示し、「自分でやる！」と、はりきっています。今朝も、自分で着替えようとがんばっています。

しかし、シャツのボタン・靴下に悪戦苦闘しています。そのうちに、イライラ、イライラ。最後には「ウァーン」と泣き出してしまいました。



ワーク
1

考えてみましょう

ゆうた君はどうして、泣き出してしまったのでしょうか？

ゆうた君は何にイライラしていたのでしょうか？

あなたがゆうたくんなら、どうしてほしいと思いますか？

あなたがゆうたくんの保護者だったらどうしますか？

やりたがり屋の3歳児にとって失敗はつきものです。**なぐさめ上手**になりましょう。

2 心配ごと ～これって熱心なの？～

エピソード2

来春、娘のリサちゃんの幼稚園入園を心待ちにしているゆきこさん。入園して困らないようにと、今からいろいろな準備を始めました。

ある日幼稚園を訪れ、先生に質問しました。

「幼稚園では、どんなお弁当箱を使っていますか？」

「はしが使えません。フォークとスプーンでも大丈夫ですか？」

「幼稚園のトイレは洋式ですか？和式を使ったことがないので心配です。」

「娘が幼稚園に入園して困らないように、身支度の練習をさせようと思います。幼稚園のロッカーと同じ物はどこに売っていますか？」

ワーク
2

考えてみましょう



これって熱心なのでしょうか？

入園前に身につけさせたいことはなんのでしょうか？

感じたことを自由に話し合ってみましょう。

幼児に身につけさせたい力とは、さまざまなことや環境の変化に対応できる力です。

3 物の貸し借り・順番どうしたら身につくの？

エピソード3

4歳のなかよしのはるかちゃん、こうすけくん、たくやくんが三輪車で遊んでいます。

はるか：「貸して。」

こうすけ：「だめ。」

たくや：「貸して。」

こうすけ：「今乗ったばかりだから、だめ。」

たくやくんは「だめ」といわれてしまい、泣き出していました。

こうすけくんは「じゃあ、いいよ。ちょっとだけだよ。」と言って、たくやくんに三輪車を譲ることができました。

しかし、たくやくんは三輪車に乗れたうれしさから、びゅーっと走り、なかなか返すことができません。

それをみて、はるかちゃんは力づくで三輪車を奪いとってしまいました。

またまたたくやくんは、泣き出してしまいました。

はるか：「だって、乗りたかったんだもん。」

見かねたはるかちゃんの母（父）は、はるかちゃんに言いました。



ワーク 3

考えてみましょう

①あなたがはるかちゃんの保護者なら、はるかちゃんにどのように声をかけますか？

②あなたがはるかちゃんの保護者なら、子供たちが仲良く交代できる方法として、どのようなことを提案しますか？

エピソード4

はじめに、10数えたら交代するということを子供たちに提案しました。

まず、はるかちゃんが乗ることになりました。こうすけくんは、はるかちゃんと交代してもらおうと、1・2・3・4・・・9・10と数えました。しかし、三輪車に乗ったはるかちゃんは、自分の行きたいところに三輪車で走っていったままでした。

ワーク4 考えてみましょう

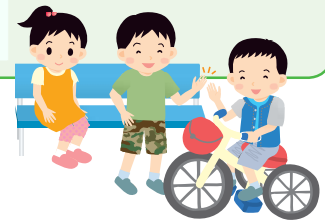
- ③ どうしてはるかちゃんは、自分の行きたいところへ走っていったままなのでしょうか？はるかちゃんの立場で考えてみましょう。

エピソード5

次に、向こうのベンチまで行ったら交代することになりました。

まず、こうすけくんが乗ることになりました。こうすけくんは、三輪車をこぎながら、「次は、たくやくん駅。」と言い、電車の車掌になった気分で、たくやくんの待つベンチまで行き、「はい、交代ね。」と言って三輪車を貸すことができました。また、その次のはるかちゃんも、「次は私だよ」と言って、並んで自分の順番が来るまで待つことができました。

その後、子どもたちは順番を守って三輪車の貸し借りをすることができました。



ワーク5 考えてみましょう

- ④ どうして「ベンチまで行ったら交代する」という方法では、子供たちが順番を守り、三輪車の貸し借りをスムーズに行えたのでしょうか。

幼児に物の貸し借りや順番を身に付けさせるためには、遊びをとおして、遊びの一部として経験することで、無理なく知らせることができます。